

中田かわら版 8月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい<53>

絵手紙公認講師

みどり

六岡 翠さん (池谷自治会)



「絵手紙は私の人生に素晴らしい出会いを与えてくれました」。そう語る六岡さんの職業はれっきとした薬剤師だった。戦後間もなく広島から上京、大学で薬学を学び、卒業後は合格率82%の薬剤師国家試験に合格。東大病院で実習生として、半年後に国税局診療所に入局。平成7年、無事定年を迎える。その間、病気らしい病気もなく「周囲にはいつもよき理解者、協力者に恵まれた人生でした」。また、薬剤師という仕事は「薬を間」にして人との交わりであり人、特に個人としての交流。絵手紙も人との交流であり、その人たちに育てられて来たことに大きな喜びを感じている、とも言っている。

定年後の2、3年は趣味の書道、鎌倉彫りを続けていたが、たまたまNHKの「絵手紙」の講座で小池邦夫先生の話に感銘を受け絵手紙協会に入会。「本当に幸運なめぐりあわせでした」。教室は東京・日本橋にあり、月1回、通った(平成12年)。小池先生の教えは「絵手紙は絵のある手紙、挨拶など形式的なものではなく、心を届ける手紙」。基本ルールは『下手でもいい、下手がいい』。卒業には60単位を取得。課題の提出、他所で絵手紙を教えるボランティア活動なども含まれる。平成14年2月卒業、3年かかった。4月に公認講師資格を取得。即教室を持つことができた。教室は自宅のほか、コミュニティハウス、地区センター、集会所など。後にデイサービスなどからボランティアの要請を受け多い時は4か所を持ったこともあった。

生徒さんには「三種の神器」から教える「紙、筆、墨」。良い道具は作品にも反映するからだ。合言葉は「頭の体操・心の栄養」。よく見る、表現を考え、言葉を選ぶ、そして楽しむ。その結果は認知機能を高め、心が豊かになるなど「認知症予防にも最適です」。

六岡さんは最近「詩」を好んで書く。詩には縁がないと思っていたが、不思議なくらいスラスラ書けるようになった。絵手紙は本来、個人に贈るもので身の回りにあるものを絵に、短い文を添えるものと教わった。しかし、一方、絵を通して自分の思いや考えを多くの人や社会(世界)に発信することもあっていいのではないかと。例えば「愛」「平和」など用紙にこだわらず自由に。



そんな時、都内の画廊で片岡 脩さんの作品に出合い感動を受ける。彼は広島で被爆し奇跡的に助かり、後にグラフィックデザイナーとして活躍。「平和」をモチーフにしたポスター100枚の制作を目標にしていた。が72枚描いたところで原爆による多発性ガンで亡くなる。パンフレットに大きく書かれたLOVEの4つの頭文字(写真左下)。そこに書かれた言葉を自宅の庭に咲いていた椿の花を描いて4枚の絵手紙に仕上げた。六岡さんには、ある理由があった。片岡さんの学校の経歴から六岡さんの夫の後輩だと分かったのだ。「広島県立一中」！。六岡さんの夫も被爆し8年前に亡くなっている。六岡さんは今、自分にできることは絵手紙を通して、この世界から「核兵器を

なくすこと」を訴えていきたいと思っている。

最後に六岡さんに「健康の源」を尋ねると「朝のラジオ体操の後、30～40分の散歩と週に1本のワインを嗜むこと」。さらに付け加えて言った。「最終的には自宅で絵手紙の仲間と絵手紙を書いたりいろいろ語り合い、最後まで人と交流できたら本望です」。(宮田貞夫)

～一人ひとりがCO₂を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

9月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西 (かさい) まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【令和元年度敬老会】

日程 9月16日(月)祝日
式典 12:30~13:00
演芸 13:00~14:30
場所 中田小学校体育館
対象 満75歳以上の方
内容 舞踊・民謡
中田中学校吹奏楽部の演奏

【中田御霊神社例大祭】

▶9月22日(日) 本年は東回りの神輿渡御、及び山車曳です。
鳥居前道路の歩行者天国化 10:00~22:00 です。
☆11:00~例大祭式執行
☆11:45~御神輿の宮出し
☆12:00~山車曳き出発
☆15:00 御神輿の宮入り
※御旅所①13:00 白百合公園
②14:20 葛野小学校 ③15:50~中田小学校 ⑤17:20 中田寺



■中田の歴史記念物<6>

「庚申塔の由来」 (しらゆり公園)

6月4日のこと。「庚申塔の由来」と刻まれた石碑を熱心に読んでいる初老の男性と出会った。たまたま私もこの石碑の寸法と字句の確認のため行ったところ、偶然出会ったわけだが、意気投合。「庚申塔って何だろう」「昔からここにあったのか」など暫し語り合った。台座の周りは雑草が生え足場は悪い。関心があっても、ここまでかけ上がって読む人は少ないだろう。「何か書かれたものがあれば、じっくりと読めるんですがね」。確かにここに書かれた文面を私も書面で見た記憶はない。そこで、調べてみた。以下全文を紹介(原文のまま)。



この辺一帯を玄蕃あらくと呼んでいます。玄蕃の屋敷跡を新しく開墾して畑にしたという意味でつけられた地名です。玄蕃は戦国時代のころ小田原北条氏に仕えていた武士です。戦国時代小田原から藤沢を経て関東に至る街道があり街道を中心に幾たびか戦いが行われました。もと、この付近に散在していた塚は、そのときの戦死者の墳墓と伝えています。

玄蕃のあと徳川家康から百十一石余の知行地を拝領した石巻五大夫康敬が、この地に陣屋を設け慶長十八年に没するまで二十年間居住していました。またこの地は庚申塚とも呼ばれていました。庚申塔があったからです。庚申(かのえさる)の日は六十一日目ごとにあります。この日は人間の体内にいる尸(し)という三匹の虫が、眠っているすきに乗じてはい出し、その人の罪を天の神に告げるといわれています。天の神に告げると神はその人の命を奪ってしまいますので、一晩中寝ないで尸のはい出すのを防ぐのです。これを庚申と呼んでいました。三尸さえはい出さなければ長生きすることができるのです。誰でも長生きを願わない人はいません。したがって庚申の日には守庚申する風習がありました。

ここに建て庚申塔は今から二百八十二年前に建てられたものです。庚申講の本尊青面金剛は六臂三眼をもつ童子で忿怒の相をしています。庚申は長生、治療の神、幸福をねがう神として古くから信仰されていました。

昭和五十年三月三十一日

(編集部注) 慶長18年(1613年)、

尸(し)

発起人

あらくの中に誰からも忘れられた庚申塔をしらゆり公園造成中で発見した私たちは、幸せを願う先祖の努力とその遺跡を偲び深い感動にうたれました。この史跡を子や孫に伝承していくために、この地に新しく塚を造成し遷座いたしました。

田中吉蔵	吉田信雄	佐藤寛治	鈴木久馬	古川喜夫	大門正雄	井岡 環
諏訪清則	青木正美	高橋 融	藤本宗市	西村範貞	桜井孝子	山田定男
沼田基彦	小栗多江子	直井きみ子	丸山静子			

※(石碑には縦書きで書かれています)

(宮田貞夫)

【訂正】7月号 庚申塔について 本文4行目、嘉永(1850)、正しくは嘉永(1853)、同10行目、寛永6年、正しくは寛文6年でした。

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス!!